

9月議会報告

西尾・幡豆三町合併14対8で可決

市長リコール署名は222456筆

日本共産党

9月議会最終日の28日、西尾市・幡豆郡3町の合併市町の... 決定されました。今後、愛知県と国の認可が下りて、来年4月1日に合併新市となっていきます。

住民投票せずに議員多数で決定

合併議案が採決される最終本会議は、多数の市民が傍聴するなかで開かれました。傍聴者の圧倒的に多くは、合併に反対の人たちで、合併に反対する議員討論には、大きな拍手が沸き起こりました。一方、合併賛成討論には「未だまでたたるぞー」などの怒号も。

反対討論に立った日本共産党の牧野勝子議員は「市の持つ情報を隠したり操作して合併を進めてきたことは犯罪的。」 また、牧野次郎議員は「合併で職員を250人減らし、財政基盤は強化されるどころか、今以上に市の財政悪化を招くうえ、住民置き去りですすめられ

無きに等しい賛成討論 賛成討論は榊原康三議員と山中弘議員がおこないましたが、合併するまでの経緯を並べた



た。」と、厳しく指摘しました。他に、反対討論には、鈴木規子議員と筒井登議員がたちまち

けで、合併の是非について述べず中身の無い討論。これには、傍聴者からも「賛成する意味がわからず、あきれられる」という声も出ていました。

と、退席した大竹議員を除く22票。その結果、反対は8票、賛成は14票となり、合併の議案は賛成多数で可決されてしまいました。

住民投票と市長リコール請求署名

ご協力ありがとうございました

今年、春から夏にかけて、2回の住民直接請求署名が実施されました。いずれも、署名を集めることができるのは、署名集め人として発議者から委任を

受けただ人に限られ、受任者の苦勞は大変でした。この大事業に取り組むことができたのは、とりもなおさず受任者の精力的な活動と、市民の御理解、御協力の結果です。



とりわけ、市長リコールを求めた署名には、榊原康三、中村真一、田中弘、長谷川敏広議員やその後援会から合併賛成のビラや市長リコールを批判するビラが配布され、市民にはさまざまなかたちで妨害や圧力が加えられました。

それは「市長や賛成派議員の言うことに市民は従うべき」と言うのに等しく、それらも含めて合併そのものとその進め方に対する不満は広がり、2万2千以上の署名を集めることができました。リコールには5千筆余足りず、不成立でしたが、市民不在の合併に対する強い抗議になりました。

今後、こうした市民の思いを大切に、より民主的で市民本位の市政を求めて活動していきたく思います。

西尾市と幡豆郡3町の合併を推進した首長と議員は、合併に

関する正確な情報を住民に提供し、住民が理解・納得したうえで、住民投票で決めるという手続きを省いたり、合併に関する情報を不正確にしたりして、合併を強行しました。短時間に合併させるには、これまで積み上げてきた民主的な手続きの要の部分を見捨てるしかないのです。そもそも、市長が期限内に合併を提案した瞬間に（それ以前から）市民への影響や思いなど問題の外のことだったのです。合併という子々孫々にまで影響する大問題、思慮深い市長であればこんな短時間に強行はありえません。期限内に強行するには、市民や議員を支配しなければなりません。ある議員は、9月議会一般質問で「合併に賛成してくれたら要望していることに予算をつける」と、市幹部が言ったと発言しています。そうして賛成派の議員を固めれば、もはや合併は住民の問題でなく、議会内だけの問題に変質してしまい、市長と賛成派議員は市民参加の道を閉ざしたのです。しかし、このことで多くの市民が市政に目覚めました。今後、市政が暴走、転落しないよう、みんなで監視していきましょう。



合併問題に対する全議員の態度と会派

Table with columns: 議員名, 住民投票請求 (賛否, 所属会派), 合併議案 (賛否, 所属会派). Lists 28 members and their positions on the merger and referendum.

7月議会後、市民クラブの合併賛成派が脱退して、会派『新生西尾』を結成しました。杉崎慎一郎議員(新生西尾)は議長のため採決には加わっていません。

9月議会報告

問題山積の市民だまし合併
福祉後退・サービス低下は許さない

日本共産党

住民不在で合併推進

横暴市長は「ノ」の声

市長リコール署名は、合併を押しとどめる最終的手段として取り組まれました。市長リコールに必要な有権者の3分の1の署名数には達しませんでした。さまざまな趣向な妨害が加えられた中でも、有権者の4分の1以上の2万2千456人の署名が集まったことは、それ自体が市長に対する痛烈な批判です。



市民だましの意向調査

昨秋行った合併説明会では合併の最大のデメリットである3町への普通交付税(22年度25億円)が、5年後から減りはじめ、10年後にはなくなり、国が負担してきた交付税分を西尾市民が負担する結果になるという事実を、まったく説明していません。昨年10月に行われた住民意



向調査の結果について市長は、市民は合併に賛成していると強弁してきました。しかし、アンケートの対象者4477人中合併推進は9・9%、445人、合併はやむを得ないを含めても1159人、26・8%、なのに、回答を返した43%を百%にして6割が賛成と豪語したのです。こういうやり方であれば、例えば10%の人が回答を返しそのうち6%の人が賛成でも、賛成が6割りとなるのです。総務省は合併に関し、住民が理解、納得することが肝要としており、対象者の過半数が回答を返さないようなアンケート結果を、賛成多数と判断するようなやり方を指導していません。西尾蠶豆の合併の進め方は国としてはならないとしているやり方を、あえて選択し強行したのです。言い換えれば国の指導をまともに受け止めれば、合併賛成は多数派にはならなかったのです。

説明資料も過ちだらけ

市長が合併推進の唯一の根拠にしたのは、住民意向調査の結果です。この調査に関する説明で、合併後の新市財政は、人件費などの節約で余裕がでるバラ色になる。その結果、西尾市を運営するために必要な事務費や人件費分を除いたまちづくり予算が、合併後10年間で800億円になると説明したのに、合併がほぼ確定した今年7月8月の説明では、まちづくり予算は10年間で413億円と半減しています。それは、リーマンショックに端を発した税収減の読み取りが甘かった、必要経費に算入すべき広域連合の職員や物件費、消防職員の人件費などを算入しなかったと説明していますが、それは、意図的に入りを目に設定し、出を少なく設定したことを証明しています。

市の財政は困窮へ

合併で新市の財政はどうなるでしょう。説明では今後10年間で180億円が節約できるように説明されていますが、合併10年後から3町への交付税が打ち切られるのですから、その先こそ問題です。交付税が打ち切りになれば10年間で200億円の減収が予測され、子や孫の代まで影響します。合併の評価は、合併した場合と、しない場合とを比較しなければ評価できません。合併しない方が、一般会計に占める人件費割合、市民一人当たりの人件費コストも少なくなる。したがってまちづくりのための予算も合併しない場合のほうが多くなります。

これで、合併による行財政効果があると言えるでしょうか。合併は、進めるために膨大な税金をつぎ込むだけでなく、新市の財政悪化を招き、市民の負担増やサービス低下につながるれば本末転倒です。国から交付税をもらわない自治体にならなければならない自治体になるならば、自治体本来的に国の責任、自治体の努力も必要ではあるが、実態を知らない身の程知らず野郎がまし

取り返しのつかない暴挙

平成の大合併を推進してきた自民党政権も、合併に対する住民の評価は相対的には否定的として、今年3月で一区切りとしています。現政権も、自主的合併については支援が必要としています。西尾市の場合、市長による議員の取り込みと、強引な押し付けで進められたものであり、地方自治の精神に沿った「自主的な合併」とは到底言えません。合併推進プロジェクトのトップも、「説明と住民の理解は十分とは言えないし、もっと説明が必要だと認識している」と、言わざるを得ない段階で、採決が横行しました。

各団体や議員の発行するピラにより、合併の問題点を認識した住民の中に合併への不安や疑問が広がり、住民投票で合併を

決めるよう求める直接請求署名が1万8947筆も提出されたのに、それを「必要ない」という意見をつけて市議会に提出した市長と、民意を無視して不採択にした議員の責任は重大で、歴史に残る暴挙です。

三町との合併が決まり市民の不安が広がっています。日本共産党は、合併新市でも、福祉の後退やサービスの引き下げを許さず、市民の暮らしを守るために全力でがんばります。西尾市議会議員選挙 日本共産党予定候補者発表

- 日本共産党は、来年4月に予定される蠶豆郡3町での議員選挙予定候補者を発表しました。
- 一色選挙区(定数4人) 現一色町議員 前出 修
- 吉良選挙区(定数4人) 現吉良町議員 加藤麻弘
- 蠶豆選挙区(定数2人) 現蠶豆町議員 倉地よし子

日本共産党西尾市議団



牧野次郎 議員
TEL 57-3064



牧野勝子 議員
TEL 59-8424

生活相談 サラ金、労働問題などのくらしの相談にしますので、ご連絡ください。

法律相談 また、法律の専門的な問題には、弁護士との無料相談もあります。毎週火曜日午後6時から8時、1件30分。予約が必要です。議員又は下記へ。

日本共産党西尾市委員会 TEL&FAX 54-4421